

各常任委員会に付託を受けた議案および予算常任委員会各分科会に分担された議案について審査した結果、主に下記内容が議論されました。

総務企画

分科会(予算常任委員会)
常任委員会

主な審議内容

【議案第1号】

七尾市選挙長等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について

◆選挙長等の報酬及び費用弁償について

㊦国会議員の選挙等と記載されているのだが、県や市の選挙等にも該当するのか。

- ◆委員長／中西庸介
- ◆委員／礒貝和典、杉木 勉、大林吉正、杉本忠一
- ◆副委員長／久保吉彦

委員会付託

・議案 7 件

分科会分担

・議案 3 件
(報告 1 件 議決不要)

㊦国会議員の選挙に関する執行経費の見直しに伴い、七尾市の条例を改正するので、七尾市で執行する選挙等について適用される。

教育民生

分科会(予算常任委員会)
常任委員会

主な審議内容

【議案第10号】

病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について

- ㊦今まではどのように診断を行っていたのか。
- ㊦病理医には、毎週火曜日が12時30分から17時、毎週金曜日が8時30分から17時15分に加え、2カ月に1度、主に木曜日に来ていただいている。3人の医師に応援いただいている状況である。
- ㊦癌であるか迅速診断できるとのことだったが、それ以外に医療の質の向上という点で、何かあるか。病理診断科ができることで他にメリットはあるか。

- ◆委員長／伊藤厚子
- ◆委員／西川英伸、山崎智之、荒川一義、桂 撤男
- ◆副委員長／山添和良

委員会付託

・議案 3 件
・報告 2 件
(報告 1 件 議決不要)

分科会分担

・議案 2 件
(報告 2 件 議決不要)

㊦癌の切除範囲が正確に判断できるため、取り残しや再手術を防げる。正常組織も含め切除すると臓器の機能障害が残るため、執刀医が切除範囲を把握できることは、患者の術後回復にもメリットとなる。今までは、細胞の専門医師が診断していたが、医師ではないため、常勤医がいることで診断ができ、診断の質が格段に向上する。病理医は県内6病院でようやく確保できる状況であり、能登地区初となるのは、大変意義がある。

産業建設

分科会(予算常任委員会)
常任委員会

主な審議内容

【報告第2号】

平成30年度七尾市下水道事業会計補正予算

◆不納欠損について

- ㊦今特別損失の不納欠損の主なものはないか。
- ㊦主なものは、受益者負担金と使用料である。
- ㊦支払いをしていただけない方もいるのか。
- ㊦受益者負担金等は、公債権により5年で無効となりますので、今回の不納欠損は、7年から8年経過しており、高齢者や行方不明等の方が多い。最近整備したところでは、分割納付などで90パーセント以上の収納率である。

【報告第3号】

令和元年度七尾市公設地方卸売市場事業特別会計補正予算

◆歳入不足について

- ㊦歳入不足の原因はなにか。
- ㊦主要原因については2点ある。1点目は、平成29年度までは消費税の還付があり、平成30年度は消費税を納付している。平成28年度は288万円の還付があったが、平成30年度は47万円を納付している。2点目は、人口減少や高齢化に伴う消費の減少、物流の変化、直売所やネット販売等により取扱量が減少したことにより、累積赤字が増えたとみている。

- ◆委員長／木下敬夫
- ◆委員／佐藤喜典、垣内武司、永崎 陽、今田勇雄
- ◆副委員長／徳田正則

委員会付託

・議案 1 件
・報告 1 件
(報告 1 件 議決不要)

分科会分担

・議案 4 件
(報告 2 件 議決不要)

- ㊦赤字を税金で補填するということが、今後も続くのか。
- ㊦売上高による使用料は、年々減少する見込みである。取扱量が減り使用料収入が減少すれば、累積赤字が増えることとなる。昨年度から、活性化や効率化を図り、事業費を削減し収入に見合う支出になるよう指定管理者と協議している。
- ㊦青果や鮮魚の年間取扱量は、どのように推移しているのか。
- ㊦売上高による使用料については、平成25年度は、1,370万円、平成26年度は、1,150万円余り、平成27、28年度は、同額、平成29年度は、1,030万円余り、平成30年度は、1,015万円余りと減少している。
- ㊦赤字補填することは条例で定められているが、何か活性化していかなければならないのではないか。
- ㊦七尾市場管理(株)、丸果七尾青果(株)、七尾魚市場(株)等と話をしながら、取扱量を増やすよう取り組んでいる。

例月常任委員会 5月14日(火) 市道等災害復旧工事現地視察

昨年の豪雨災害で被害があった市道等の復旧工事の状況を確認してきた。都市建築課から工事の進捗状況の説明を受けた。